

令和4年7月(2022年) No.679

中心的な世話役さんの入院に思う

OMC運営のスムーズなカバー役割に感謝

会長 合原 一夫

このほど進藤信男副会長の突然の入院で、可成り長引きそうとの連絡を受け、直ちに彼の役割を引き継ぐ必要に迫りました。幸い我がクラブは原則として正副二人制にしていたので、急な事ではありましたが「会計」は副の宮崎紀代子さんが引継ぎ、例会の役割も記録、司会、書記役ともに代行者でスムーズに運営でき心配ありません。映像フェスティバル関係となると、上映用のディスクの準備、芳名簿管理、宛名書きシールの作成、図書館への寄贈DVDの作成等々ありますが、これも中川良三さんや岡本至弘さんに引き継いでやって頂くことになり、見通しはつきましたが、進藤さんが倒れて不在になって改めて進藤副会長の役割が大きかったことを感じています。進藤さんのご快復をお祈りいたします。

進藤さんは7月1日に退院され、今後は自宅療養と通院診療、リハビリ生活になるとの事で、比較のお元気な声でお電話を頂きました。

■ 控役の大切さ

特定の人に役割が集中しすぎるのは、何かあった時に、すぐ困ってしまいます。普段から正副二人制にして、控を作っておくことは、例会運営でもうまくいきます。この点では以前からずっと正副二人制を取ってきた我がクラブの運営方式は間違っていなかったと思います。

特に企画担当(主に撮影会)は3年も前から順番が決まっていますので、対策が取れるという利点があります。撮影場所、テーマ、時期等々大事な要件は急に決められるものではありません、正副二人制で、事前に調べ、現地調査して、初めて実施プランが完成します。特に祭りが絡んだテーマだと宿泊ホテルの予約が絡んできます。

ともあれ会員の皆さん、皆で協力し合ってスムーズな会の運営に一層のご協力のほどお願い致します。

7月例会のご案内

- 第2例会；21日(第3木曜日)13時～撮影会作品審査、後一般作品
- 通常例会；23日(第4土曜日)18時～公開映写会用作品今月で締切り
暑い盛りですが会場は冷房が効いています。何か羽織るものを。

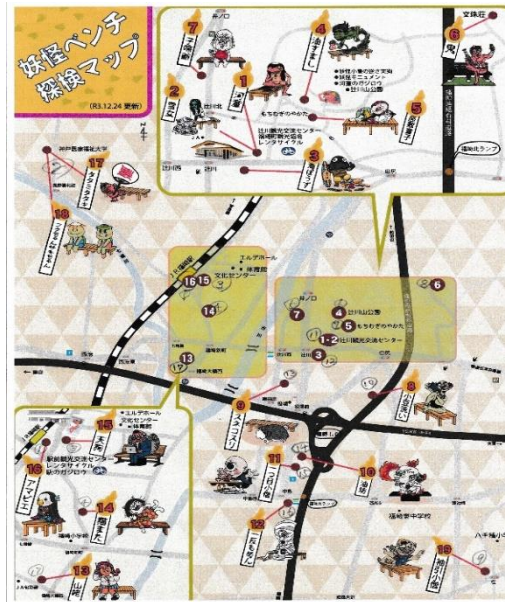
撮影会作品つくってますか？

去る5月14～15日に行われた福崎撮影会より1ヶ月半が過ぎましたが、参加者の皆様、作品作ってますか？

せっかく久しぶりの撮影会だったので、撮影の方は皆熱心に動きまわって撮影しておられました。

一方、編集のこの時期、記録的な暑さで参っていますが、どうですか進み具合。

今度のテーマは脚本校正の如何が物を言うように感じます。どうまとめるかの勝負になるでしょう。まあ、せっかく撮影会に参加したのだから、参加者全員出品しましょう。



福崎撮影会資料より

6月通常例会レポート

今年の梅雨は短くて雨も少ないらしい。例会日の25日は朝のうち少し雨がぱらついたがすぐ止んで夕方には晴れ間も、その後も雨無しの猛暑が始まった。しかし例会場は空調が効いていて少し肌寒い位の室温

今月は山口の河口さんと、関さんの作品が今年初めて不在出品があり、全部で11本の作品が上映された。

今月の司会は進藤氏の当番だったが入院不在の為合原会長が変わって担当。

- **運営担当:** 司会合原、書記 紙本、YouTube 関係 江村、映写 坪井、岡本、メモリー記録 中川、受付・照明 森下、宮崎の各氏
- **出席者:** 岩井、江村、大久保、岡本、紙本、合原、高瀬、鉄具、坪井、中川、宮崎、森下、山本の13氏
- **作品参加:** 河口、関、進藤の3氏
(受付順・敬称略)

上映作品(今回の書記 紙本氏)

1. コータロー BD

河口禮志 15分29秒

(作者コメント)

9年前、大阪市内に住む私の次男夫婦に第一子(男)が誕生した際、お祝いにビデオカメラをプレゼントしました。以来、第一子、第二子(女)の成長記録を次男夫婦がこまめに撮り続け、ブルーレイディスク等により山口県の私に送って来ました。その記録映像の中より、昨年の2021年春～2021夏までの映像を選択・編集し、作品化しました。当時、第一子は小学2年生、第二子は幼稚園中組でした。題名は試行錯誤の末、第一子の名前「コータロー」としました。作品中の映像はすべて次男夫婦が撮影したものであり、私は編集とタイトル・テロップ付け、及びナレーション付加の作業をしたのみです。BGMはあえて使用しませんでした。極めてプライベートな映像なので、公開することに躊躇しましたが、見て下さい。

(書記コメント)



次男ご夫妻が長男コータロー君を中心にして、妹さん共々の成長されてゆく姿をお住まいの大阪と作者の山口県周南市で記録されています。一家団欒でバーベキューを楽しむ様子やお孫さん二人で仲良く戯れる等等こまめに撮影されているのに感心です。作者自身は編集などのまとめ役、可愛いお孫さんの作品とあって力が入ります。しっかりと撮影されているので、お孫さんには勿論、ご一家には貴重な映像になることと思われます。

(会長コメント)

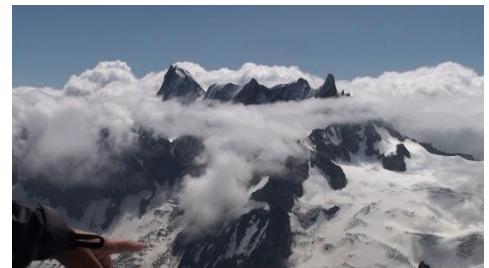
ご家族の記録として撮影は落ち着いてうまく撮られていると感じました。

さて、こういうご家庭の映像を第三者に観てもらおう作品にするとなると課題がいっぱいあります。編集が時系列的につないだものと思われ、大阪と山口とがごっちゃになっていて第三者は混乱します。あの家族の母という視点でナレーションを綴っておられるが、①大阪での家族の生活→②母親から見て、あのやんちゃ息子がこのような家族の大黒柱になっていて感無量→③あの家族が新幹線で遠く山口の里にやってきた、楽しく過ごした思い出→④電車に乗ってあの子等から大阪へ帰っていった、元気で過ごせよ……。大阪と山口の代表的なシーンだけで構成し、全体を7～8分に仕上げられたらどうでしょう。

2. モンブランを望みながら BD

関 剛 9分00秒 (作者コメント)

フランスのシャモニーから、6台の空中ケーブルを乗り継いで、ヨーロッパアルプスを横断した旅の記録。登り始めて天気も回復、念願のアルプス最高峰モンブランも手に取るように見ることができた。富士山より高所にあるエギュ・ドユ・ミデイではアルプス特有の鋭く突き立った多くの針峰群を眺めることができた。



(書記コメント)

ヨーロッパアルプスを横断されたとの事、まずは贅沢な話。アルプスの白銀の峰が厳かに輝き眩しい。空中ケーブルを6ヶ所も乗り継いだ先のヨーロッパアルプス最高峰とかのモンブラン4807mを手に取るように見たとあり、凄い景観です。その行程中も勿論凄い。三連のドラゴンによる空中散歩も圧巻、針峰群とやら抜群の景色で素晴らしい山岳映像に魅せられました。

3. 春きにけらし BD

進藤信男 8分40秒

(作者コメント)

コロナ明け、春待ちしていた時の作品。五月例会提出を予定していたが叶わず。春の名残がある間にと思い六月に託しました。課題作品「友」で紹介された禅宗(座禅語)も思いだしながら作ってみました。「〇〇の横好き」になったかも知れませんが、春に願いをかけてみました。



(書記コメント)

コロナ禍の冬去りて、水ぬるむ、草木めぐみ人々集うとあり、万博記念公園にも春が来たらしくて柔らかい日差しのもと、子供や訪れる人達で段々と賑わうようになり桜も咲き、人々は陽気に誘いだされる。子供は水遊びに夢中、ポツポツ列車がゆく、雪柳の白さ、枝垂れ桜が華やか、演芸あり、今や春は満開になる。それは植物も人も春きにけらしから謳歌する季節になったという様な、うららかさを感じる作品でした。

(会長コメント)

春らしい万博公園をうまく撮影されていますが、ラストに、高いところから俯瞰で緑多き万博公園と太陽の塔を遠望し「1970年に、ここで繰り広げられた大阪万国博の大なる遺産が、今大きく花開いています」とのラストコメントがあれば、この作品も別の意味で生きてきたのではないかと思います。

4. 神様になった柿本人麻呂 BD
鐵具嘉夫 10分00秒

(作者コメント)

万葉集の歌人柿本人麻呂は何故神様としてたわれるようになったのでしょうか。学芸の神様、防火の神様、安産の神様でしょうか。彼は生涯妻を愛したからでしょうか



(書記コメント)

柿本人麻呂は何故神として仰がれるようになったのだろうか、作者は藤原京・人麻呂公園から、かぎひろの丘万葉公園・山のべの道・宇治川、はては坂出・浅草寺・明石海峡迄訪ねられ、それぞれの地で詠われた長歌や短歌を被露されています。歌人として靈験あらたか、作者のコメント通りの神として祀られているのでしょう。

(会長コメント)

難しいテーマに挑戦されて作品にされているその努力に敬意を表します。唯、ラストのナレーションの直後にエンドマークが出てくるので、せっかくの作品の余韻が無く残念です。最後のナレーションの後BGMで雰囲気盛り上げ20秒ぐらいで終わるようにすればよいでしょう。BGMはフェードアウトではなくきっちりと終わるような曲を選びましょう。

5. 頭塔と土塔 BD
紙本 勝 7分00秒

(作者コメント)

奈良市の高畑町にある非常に珍しい佛塔は、奈良時代に僧実忠によって造営されたもので、玄昉の首塚という伝説で頭塔と呼ばれるようになったといえます。発掘で石佛は重文に指定、貴重なものとか。堺市土塔町には僧行基が造営した土塔があり、いずれもピラミット型で、佛塔ながら謎も多く魔訶不思議なものでした。



(会長コメント)

近場に居ながら、初めて見せて頂いた貴重なる遺跡の風景でした。

6. 三室戸寺を訪れて BD
中川良三 8分51秒

(作者コメント)

三室戸寺の境内、階段に昇龍をあしらった紫陽花が展示されていると聞き訪ねることにした。思ったよりの人出で、皆さんの情報を収集するのが早いと感じた。階段の昇龍のモニュメントは素晴らしかったが境内の紫陽花はまだ盛りではなかったのが残念でした。



(書記コメント)

三室戸寺は西国10番の札所で、本尊は千手観世音菩薩、階段の紫陽花の昇龍が鮮やか。源氏物語浮舟の碑そして三重の塔・若乃花の手形、狛牛の口の中にある石に触れる勝ち運に恵まれるというのが面白く、狛兔福徳兔も同じで有難いという。紫陽花は一寸早かったとありますが、きれいに咲いているのもあり、有名だそうです。

7. 渡月橋

BD

江村一郎

8分20秒

(作者コメント)

4月の作品「北山・鹿苑寺」で金閣寺に行ったあと嵐山の渡月橋に行くも、すでに雪ほとんど消え山側に少し残るのみでした。冬の情景だけではどうにもならず3ヶ月後に春の渡月橋を訪れ、法輪寺の十三まいりをメインとして何とかまとめました。その後に偶然とはいえ渡月橋を架けた角倉了以の邸宅だった「がんこ高瀬川二条苑」に行くことになった。



(書記コメント)

嵐山を象徴する観光名所渡月橋に雪花が舞い行き交う人は足をとどめない。名の由来となった月が橋を渡る様子が描かれる。そして春法輪寺の十三参り、橋と桜と賑わう渡月橋境界がいかにも京都らしい。渡月橋は承和3年、弘法大師の弟子道昌により架設され、橋の南に法輪寺があったので法輪寺橋と呼ばれ、龜山上皇は月が東から西へ橋を渡る様子を見て渡月橋となすけたという事と現在の橋は角倉了以が架け替えたということなど詳しい映像を拝見して色々知ることができ、やはり名橋だと感じました。

(会長コメント)

冬の渡月橋、着物姿の観光客など、渡月橋を渡る人達の姿、表情がうまく撮られていて素晴らしいと思いました。が、途中からお寺さんの方へカメラが移ってしまったのは残念。ドキュメンタリー作品ではないので、そのお寺さんと渡月橋が関係があるからと言われても、この作品はあくまで渡月橋に絞ったファンタジックなイメージ作品にしてほしかったと感じました。秋の紅葉をバックにした橋も欲しいですね。

8. ふれあいまつり

BD

岡本至弘

10分50秒

(作者コメント)

5月8日に行われた、東大阪市民ふれあいまつり取材したものです。コロナ禍で、3年ぶりに開催されました。わたしの出演のため、中川会員に撮影協力をいただきました。趣味の短歌を挿入してみましたのでご覧ください。



(書記コメント)

市長の挨拶から始まり、パレードが大通りを何組も行く。そして祭りの本番とも言えそうな「美咲会と壺の集い」チームの河内音頭の踊りが、道一杯になって進んでゆく。進むにつれて映像の背景替わり、作者も踊りに加わり10分近く続く。「ふれあいの祭りの空に風薫り踊り子たちの雄姿が映える」の通りで、出演の作者と撮影協力の中川会員、共どもにお疲れ様でした。

9. 安曇野の旅

DVD

合原一夫

9分40秒

(作者コメント)



8ミリフィルム作品。副題に「銀嶺遙か」が付く。安曇野の4月はまだ早春、梅と桜とが同時に開花、日本アルプスの銀嶺から流れ出た清流で、わさびの栽培が盛んである。ゆったりと回る水車、道端の道祖神など、自然豊かな安曇野の旅。もう30年前の映像だが、今見ても当時の思い出がよみがえってくる。撮影1992（平成4年4月）年

（書記コメント）

安曇野には北アルプスの山々からの湧水が流れ、多くの登山や観光客が訪れるようです。名水百選の水はその規模日本で知られる大王わさび農場を巡り、農場内の蓼川では、水車が美しい景観を見せます。路傍の道祖神や礫山美術館の彫刻は文化を表ののでしょうか。それらをご夫婦で廻られた記録は今でも懐かしく蘇るのだらうと思われます。

10. 西高野街道 **BD**
山本正夢 **11分00秒**

（作者コメント）

西高野街道は堺から河内長野市まで続きます。大阪では旧街道と一般道が重複しているので歩きは注意が必要です。

（書記コメント）

街道歩きを続けられている山本さん。今回は西高野街道です。堺市の大小路を起点にして高野街道の合流するまで18kmの道程で、名所・旧跡も含めて神社・佛閣や街の様子をこまめに撮影されています。結構時間を要したものと察します。高野街道の合流点で終わりですが。次回作品を期待します。



11. 懐かしの京都市電 **BD**
高瀬辰雄 **7分45秒**

（作者コメント）

昨年11月に映写した「広電の詩」は広島路面電車をテーマにしましたが今回その時撮影した映像の中から京都の市電に絞ってまとめてみました。広島では43年前に京都で廃止された電車が今でも当時と変わらない姿で走っていました。と言っても1時間に1本くらいしか京都市電に出会わないので、撮影チャンスは少ないのが残念でした。

（書記コメント）

広島原爆ドームを背景に、その数日本一という広島市電が走る。この中には大阪や神戸から購入したものもあるようです。映像は京都を走る市電。明治28年から83年間、京都市民の重要な足となりましたが、全廃後他社に譲渡され現役で活躍しているとのこと。そして広島市内を走る懐かしの京都市電の健気な姿、自慢にも思えるように作者のカメラが追う。懐かしさ溢れる視線で、時間をかけて撮影された市電、まだまだ頑張ることでしょう。

（会長コメント）

遠く広島まで出かけ、1時間に1本くらいしか出会えない京都市電の活躍ぶりを丹念に追いかけており、良い作品になっています。古い京都市電が今でも広島の地で頑張っている姿に感激です。ここに題名が「懐かしの」というのでは惜しい「懐かし」のレベルを乗り越えて「まだ頑張る・・・」といった人生に譬えた題名の方が言わんとするテーマの意図が第三者に伝わるのではないかと思います。

